

コイチョウラン *Ephippianthus schmidtii* Rehb.f.

【評価理由】

個体数階級 3、集団数階級 4、生育環境階級 3、人為圧階級 2、固有性階級 1、総点 13。寒冷地性の小型のラン科植物で、愛知県では生育地も個体数も極めて少ない。

【形態】

多年生草本。地下茎は糸状で横にはい、先端に 1 枚の葉と花茎をつける。葉は長さ 2~5cm の柄があり、葉身は広卵形、長さ 1.5~3cm、幅 1~2.5cm、先端は鈍頭、基部は浅い心形である。花期は 7~8 月、花茎は細く高さ 10~20cm になり、花はその上部にまばらに 2~7 個つき、小さく淡黄白色~淡黄緑色、苞は膜質で長さ約 1mm である。がく片は長楕円形、長さ 5~6mm、幅 1.5~2mm、先端は鈍頭、側花弁はやや短い。唇弁は長楕円形で、がく片とほぼ同長、全縁である。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：2 豊根 (小林 33762, 1989-7-30)。1 所に生育していたが、最近の状況は確認されていない。

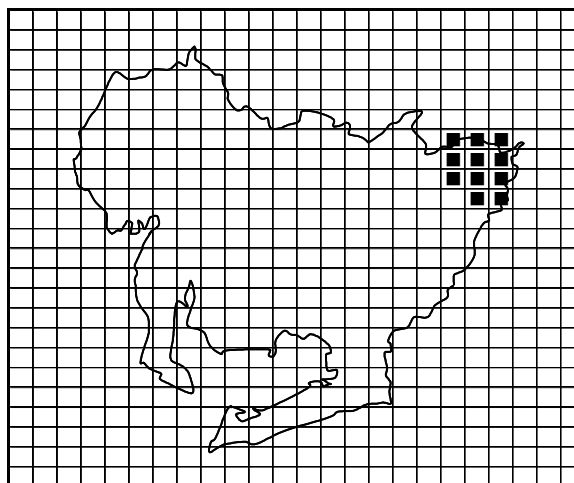
【国内の分布】

北海道、本州中北部、四国。

【世界の分布】

千島列島、サハリン、日本。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

山地の主として針葉樹林内に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林	○			
草・岩				
湿地				
水域				

【現在の生育状況／減少の要因】

個体数は少なかつたらしい。ラン科としてはあまり目立たない植物で、伐採や牧場化などで失われるおそれがある。

【保全上の留意点】

生育地の森林を保全する必要がある。

【特記事項】

コイチョウラン属は日本とその周辺に固有で、本種とハコネラン *E. sawadanus* (F.Maek.) Ohwi の 2 種からなる。

【関連文献】

保草本III p.45, 平草本 I p.220, 平新版 1 p.197, SOS 旧版 p.113.